

「超ハード」でも「楽しい」 自ら考え実践することで変わる学生生活

2012年初頭、小野先生を囲んだ6人の3年次生の全員が、最初からBLSPは「超ハードな」プログラムと知っていたという。楽じゃない。それでもそこに参加しようと思ったのは、ほかでは得られない経験ができると思ったからだった。折り返し点にさしかかったいま、その実際をどのように感じているのか。



小野 善生 准教授 (おの よしお)
商学部商学科マネジメント専修
BLSP「リーダーシップ論」担当

自分たちで考えて動いていくことで 総合力が鍛えられるプログラム

小野 まず、皆さんがBLSPに入ろうと思われた理由、きっかけというところからお聞きしたいと思います。

竹内 ぼくの場合大学選びの時点で、BLSPというのは関大の商学部で、いま一番力を入れているプログラムだということを知り興味を持ったのが最初です。実際に入学して話を聞くと、やはりレベルが高く、大変な面もあるけれど、自分が成長できるプログラムだということ、入ろうと考えました。ワシントン大学での講義ですとかマイクロソフト社でのプレゼンなど、ほかでは経験できないことが経験できるというのが魅力でした。

福崎 私はプレゼミでBLSPの先生の

ゼミに入って、いままでとは違う指導を受けたんですね。能動的に、自分たちが考えてやっていくという姿勢が好きでした。それでBLSPにそのまま進みました。BLSPでは研究プロジェクトを任せられます。任せられるので自分でやらなければいけないし、やったことに関しては厳しく評価されます。そういう意味で、いっぱい考えて、いっぱい悩んで、いっぱい成長できる場所だと思いました。

小野 記憶に残る失敗はありますか？

福崎 失敗しかなかったんですけど(笑)。一番の困難は研究テーマが決まらなかったことですね。最終的には私が見つけたテーマを、やりたいんですって先生とみんなにお願いして、納得してもらったんですけど。そのとき、どういうふうに伝えたら人は理解してくれるのかということを学んだ気がします。

小野 なるほど。ほかのみなさんはいかがですか？

宮本 ぼくがBLSPに入ったのには2つ理由がありました。1つは担当教員の先生のゼミに入りたかったこと。もう1つは、BLSP 1期生からシアトルでの体験などのほか、1年間を通してやったことに関して話を聞き、すごく興味を持ったんです。それとゼミの先生の教え子の方にも一人に話を聞いたんですが、もう本当に、しごかれたというんです。でも、そこに自分を育ててやろうという先生の気持ちを感じたっていうんですね。自分も、そのような状況に置かれたいと考えました。

小野 それで、実際にはどうですか？

宮本 自分たち次第かなと感じています。自分たちがぶつかっていかないと、応えてもらえない。先生に厳しく接してほしいと待つ



竹内 裕貴 (たけうち ゆうき)
BLSP 馬場ゼミ

ているだけでは、興味を持ってもらえないので、そういう意味ではぼく自身、反省する点も多かったかなと思います。たとえば、研究テーマにしても、何十冊も本を読むとか、もっと努力したうえで、自分たちから提案していくというのが必要だったかなと思います。

小滝 私がBLSPに入ったのは、勉強で本気を出したいと思ったからです。変な言い方かもしれませんが、高校までの勉強は、やれば答えが出るということで、ある程度余裕がありました。で、ほかのことをがんばるという形で来て、大学生になったとき、大学で学ぶということを改めて考えると、もっと本気になりたいと思ったんです。プレゼミの受講を通して、BLSPは総合力とか人間力とかいうところを鍛えられるところだと思いました。私自身は、まだ専門性を絞り込みたくなかったというのもありまして、BLSPを選びました。

山口 ぼくは1回生のとき受講した先生の授業に魅力を感じて、その先生のゼミを

希望しました。BLSPに関しては1学年上の先輩からすごく大変だということを知っていましたので、そういう所へ行けば高い志を持った人と出会えるかなと思いました。入ってみると本当にみんな志が高くて。課題の研究をするだけではなくて、個人でなにかをしたり、学外でも活動したりと能動的に動いているので、自分も刺激されてがんば



福崎 紘子 (ふくざき ひろこ)
BLSP 馬場ゼミ

れると感じています。

藤岡 私は1、2回生のときに結構遊んでいました(笑)。いつも仲のよいメンバーとばかり遊んでいたんですね。でも、3回生になって、せっかくたくさんの方が集まる関大に来ているのに、同じ子とばかり一緒にいて、同じことばかりしているというのはもったいないと感じたんです。何か新しいことにチャレンジしたいと思ったタイミングでBLSPの説明会に参加してみると、今まで話したこともない人たちがたくさんいて、そんな人たちと一緒に一つのプログラムに取り組んでみるというのは、もしかしたらすごく楽しいことなんじゃないかと思ったんです。

小野 それで、それまでの生活とは変わりましたか。

藤岡 はい、変わりました(笑)。本当に大変だったんですけど、そのなかで楽しさも感じられて、よかったなと思います。

論理的に考えて人に伝えることと 集団の中の自分を意識すること

小野 それではいまの話に関連して、BLSPに入る前と後とは、なにが変わったかということをお聞きしたのですが。

竹内 ぼくも1、2回生のときはよく遊んでいて、その資金を得るために週に5日とかバイトをしたりしていたんですけど、BLSPに入ってからバイトもほぼなくなりました。ゼミのメンバーが毎日集まったり、

人付き合いというのが変わりました。以前から付き合っていた人とももちろん交流はあるんですけど、それよりもっと長時間、ゼミ内で課題の話や研究の話をしているという感じで。

福崎 私が一番大きく変わったと思うのは、論理的に考えることの大切さを意識するようになったところでしょうか。いま思えば、大学2年生までの自分は、考える習慣がなかったように思います。先生方に考えなさい、自分の意見を持ちなさいといわれても、それって難しくて、また、考えたとしてもそれを表に出す機会もなかったんですね。BLSPでは考えなければならぬし、それを出していかなければならぬということ、考える習慣がついたと思います。もう1つは時間管理ですね。やらなければならないことは多いけど、ほかの授業もある、プライ



宮本 健太郎 (みやもと けんたろう)
BLSP 馬場ゼミ

ベートもあるということで、どれをいまやるべきなのかという順位の付け方だったり、逆に、どこで息抜きをするのかといったマネジメントができるようになった気がします。

宮本 ぼくは、ものの見方が変わったかなと思います。1つのゼミに15人近く人がいて、3つのゼミが一緒に活動するわけですから、そこでこの人はこう、あの人はこうと見ていくなかで、じゃあ自分って集団の中でどういうポジションなのかとか、ほかの人と比べてこういうところが足りないなとかいうことを意識するようになりました。

小野 以前はそういう意識はなかった？

宮本 だれかと比べて自分はこう、というふうに思うことは少なかったかもしれないです。あったとしても、それは本当に限られた仲のいいメンバーに限られていましたから。

小滝 私の場合は、失敗を恐れなくなったというのと、周りを意識して事を運ぶようになったと思います。もともと私は勇気がな

くて、先読みネガティブって感じで(笑)、どんなことでも保険をかけておいてリスクを回避しようとするタイプなんです。だから挑戦はしないというか、本当だったらできるかもしれないのに、ちょっと手前のレベルでやめておくということが多かったんです。また、周囲に対しては、意見をいうときでもきつくいっちゃうというところがありましたし、自



小滝 愛 (こたき あい)
BLSP 川上ゼミ

分の考えが中心になってしまうというところがあったんですが、それがちょっとはましになったかな、と思います(笑)。

山口 ぼくは、物事を人に伝えることの大切さを感じました。最初に海外ワークショップをしたとき、リーダーを務めたんですけど、そのとき先生からの指示をみんなに伝えるということ、怠っていたつもりはなかったんですけど、思ったほどできていなかったということがありました。いままでにも小さなグループでのリーダー的な役割をしたことはあったんですけど、そのときは、自分がかんばればできていたんですね。でも、BLSPの研究テーマというのはずっと大きくて、一人ではやれない。どうしてもみんなで仕事を分け合ってやらなければならない。リーダーとしてはそれを指示して、先生ともたくさんコンタクトをとって、効率よく作業を進めていかなければいけないということで、さまざまな場面で考えたことをきちんと伝え

ることの大切さを感じました。

藤岡 山口君の話に似てるんですけど、私も相手の話をきちんと吸収して、自分の考えを説明することの大切さを感じています。以前は、自分と似た考えの友だちとばかりだったので、以心伝心みたいなところがあって、口に出さなくても伝わってるだろうで済ましていたんですね。でも、BLSPで研究などを行っていくうえで、自分の考えに説明がないと、みんな納得もしてくれないし、反論もしてくれないわけで、自分がこう思ったというときに、なぜそうなのかということきちんと伝えることが大事だと思いました。

大切なのは学びたいという気持ち チャンスはいくらでももらえる

小野 来年 BLSP に入ろうと考えてい



山口 裕輔 (やまぐち ゆうすけ)
BLSP 川上ゼミ

る人や、あるいは進路を考えている高校生にとっては、先輩であるみなさんの実感というのは、貴重な情報だと思います。そういう意味で、どういう覚悟を持って入ってくるべきなのかという話を聞かせてもらいたいと思います。

竹内 BLSPって、相当英語を重視するわけですけど、ぼくは英語が苦手なんですね。プレゼミで先生に相談したときも、英語の厳しさというのはいわれていまして、どうしようかとなったんですけど、自分の英語力が低くても、入るからにはみんなにしっかりくらいついてやっていこうと思いました。自分がそうなので、先生方はもちろん能力も見ておられるんでしょうけれど、学びたい気持ちと、そこについていこうという志がまず

必要なんじゃないかと思います。

福崎 さっきの山口君と藤岡さんの話に関連するんですけど、とりあえず、自分の話がなんでも聞いてもらえるとは思っていいたいです(笑)。いままでは、周りの大人は聞いてくれてたんですね。無駄な話でも、要点がまとまっていなくても。でも、ここでは自分たちも一般の大人として扱われるの



藤岡 愛依 (ふじおか あい)
BLSP 岸谷ゼミ

で、要点のない話は聞いてもらえません。「話が長い」ってバツサリ切られたことも何回もあります。相手に聞いてもらえる話をしなければいけないんですね。自分がしたいことの明確なビジョンを持って、それを実現するためにどうするかと考えてほしいです。

宮本 BLSPが始まると、内容が盛りだくさんで、本当に時間が足りないんです。だから大学に入って1年、2年のうちにどれだけ勉強するかがすごく大事だと思います。ぼく自身、1、2年時は単位の取りやすい授業を取るとか、サークル活動に没頭するといった形で、十分には勉強してこなかったんですが、いま、それを後悔しています。本来1、2年でしっかり準備しておいて、BLSPに進むというのがよかったと、いま思います。

小滝 私はBLSPは、自分でなにかをつかみにいかないと、なにもつかめないプログラムだと思います。チームでやる分、カバーしてもらえる部分もあるんですけど、逆にチームの一員として力を発揮していかないとまわらないのも実感しました。なにかを得ようと積極的に動けば、いくらでもチャンスはもらえるプログラムだなと思います。

山口 そういう志は本当に必要だと思います。英語力についてもそうです。このプログラムに参加すれば英語は伸びるというふうに思うかもしれないし、実際に英語に触れる機会が多いのは確かですけど、自分で目標を定めて、英語力を伸ばしていこうとしないダメなんですね。そこを勘違いしない



馬場ゼミ

でほしいです。

藤岡 みんなの話を聞いて、私は BLSP に入る前にそんなにすごい決意があったかといわれたら、もしかしたらなかったかなと思うんですけど(笑)。でも、入ったからにはやらないといけないし、やってるうちにだんだん楽しくなってくるしというのがありました。決意を持って入ってくるというのは大事だと思いますけど、このプログラムに興味を持つ人ならやっていけるというか、入ったあとは自然に努力するようになると思います。

欲張りで濃いプログラムを通して切磋琢磨できる仲間との出会い

小野 それでは最後に皆さん自身に戻っていただいて、ここまで一年弱やってきて、どんな手応えを感じていますか。

竹内 ぼくは、やる気は持って BLSP に



岸谷ゼミ

入ったんですけど(笑)、やっぱりそれなりの実力は求められるわけで、英語では苦労しました。授業についていくのに必死で。海外ワークショップのためのプロジェクト研究の方も、最初は日本語で始めたのが英語に変わると、途端にあまり参加できなくなったりということで(笑)、いろいろ困難はあった

んですけど、自分なりに努力して、マイクロソフトでも発表できましたし好意的なコメントもいただきました。1年間やってきて、高校のときから入ろうと考えていたその気持ちは間違っていなかったなと思えるので、よかったです。

福崎 私は商品開発がしたいとか、英語でプレゼンがしたいとかいう思いが

あったんですけど、やっていくうちにどんどん新たなものが見つかるんですね。英語でのプレゼンでは、質問がよく分からなくて、うまく答えられなかったりとか、すごく悔しい思いをしたり、商品開発にしても、すごくやってみたいことだったんですけど、実際にやってみて理想と現実とのギャップに気付いたりして。最初、やりたかったことができ嬉しんですけど、それ以上に得られるものがあつたなと感じます。

宮本 BLSP って、欲張りなプログラムですよ。短期間のうちにいろんなことがあって、ゼミのプロジェクト研究だけじゃなくて、関連する授業もたくさんありますから。だから、ひとつひとつを丁寧にやっていかないと、適当になっちゃうというところがあると思います。学ぼうという気持ちがあればあるほど伸びるんですけど、それがなかったら、なにもかもが中途半端で身に付かないということになってしまうと思います。



小滝 いま思えば、とにかく濃かったな、という感じです。私は年末にその年を振り返ってみるんですけど、この1年分を振り返るときりがなかったというか、全然終わらなかったというか(笑)。それだけいろんなことをやったわけで、しんどいのはしんどかったんですけど、もう1回同じことをやるかと聞かれたら、やります。多分(笑)。

山口 ぼくも、やりがいのあるプログラムに参加できてよかったなと思います。性格上、あまり辛いと感じることがなく、その瞬間は辛いんですけど、すぐに忘れちゃうみたいでして(笑)。だからこの1年も大変だったなとは思いますが、辛かったという感じはないんです。ある程度結果は残せたかなとも思っています。

藤岡 私も BLSP っておいしいプログラムだなと思っています。いろんなことを経験させていただけるし、いろんな先生に出会えるしというのがあって。シアトルでのプレゼンで褒められたとか、Sカレで賞をいただけたとかという結果よりも、切磋琢磨できる仲間たちと出会えた、素晴らしい先生方に教えていただいた、そのなかで自分が1年間がんばれたというのが、大きいと感じています。

